NPO瑞浪芸術館　令和２年度事業計画

企画No.	事業内容	実施予定日
No. 203	～古布リメイク～ しだれ桜と洲崎ルリ子・瑠璃工房展	4/18（土）～26（日）
No. 204	新井英一ライブ 開場14：00　開演15：00	5/24（日）
No. 205	～絵画・彫刻・染織・陶・彫金等～ 「静岡の風」Ｖ展 ギャラリートーク（作家&作品紹介） 27日（土）15：00～	6/27（土）14：30～ 7/5（日）12：00
No. 206	堀昌義書画展	8/1（土）～ 8/10（月・山の日）
No. 207	日本人のこころ 山頭火・大山澄太展（俳人の書）	9/19（土）～27（日）
No. 208	日本人のこころ ～民俗学者宮本常一著「忘れられた日本人」より～ 坂本長利独演劇『土佐源氏』	10/25（日）14：00～
No. 209	日本人のこころ ～囲碁棋士の書との遭遇～ 藤沢秀行（書）・近藤精宏（陶）展	11/7（土）～15（日）
No. 210	瑞浪芸術館支援チャリティー展 同日出品：瑠璃工房　古布・ボタン等	11/21（土）～29（日）

※詳細につきましては、随時ご案内させていただきます。
なお、変更をさせていただくことがありますのでご了承願います。

瑞浪芸術館ホームページ：http：//mizunami-art.com
Facebook　：https://m.facebook.com/mizunamigeijyukan
メールアドレス　：mizunami_geijyutukan@outlook.jp
TEL/FAX　：0572-66-2170

イベント展示作家の紹介

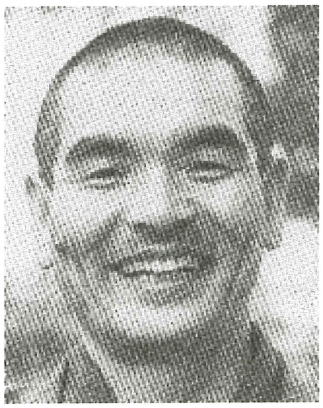
「山頭火・大山澄太展」

種田山頭火（たねだ さんとうか、1882年（明治15年）- 1940年（昭和15年））



禅僧として各地を旅するさなかに数多くの句を残した俳人。
俳句は荻原井泉水に師事し、同門の尾崎放哉とともに「自由律」の句風で知られる。
『鉢の子』『草木塔』『山行水行』などを著し、「分け入つても分け入つても青い山」「まつすぐな道でさみしい」といった代表句を残した。

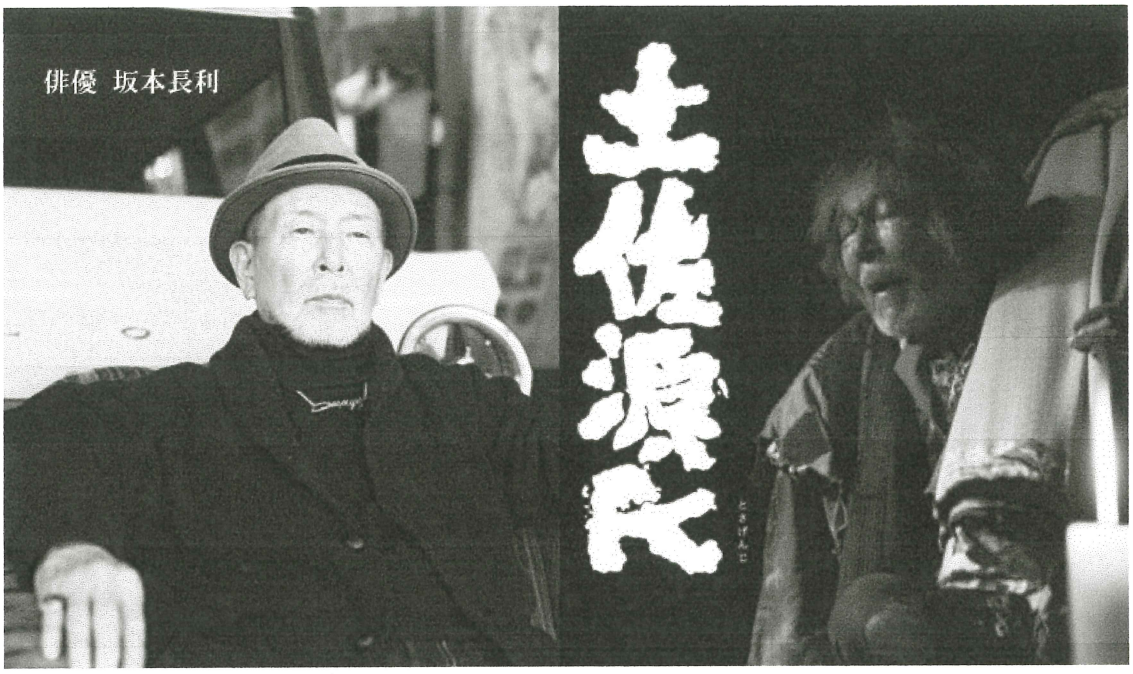
大山澄太（おおやま すみた、1899年(明治32年) - 1994年(平成6年)）



荻原井泉水が主宰した自由律俳誌「層雲」に加わり、自由律俳人として活躍。山頭火の著作を編集したり、「俳人山頭火の生涯」「山頭火の道」を執筆するなど種田山頭火を世に出した人物として有名である。
また座禅を山崎益洲の元で学び、宗教家としても知られる。
戦後は愛媛県で社会教育や執筆を行っており、昭和38年に愛媛県教育文化賞を受賞した。
句集に「五十年」がある。

「～民俗学者宮本常一著「忘れられた日本人」より～

坂本長利独演劇『土佐源氏』」



坂本長利（さかもと ながとし、1929 年（昭和 4 年）-）

島根県出雲市生まれ。「ぶどうの会」「変身」等の劇団を経て、小劇場運動の先駆けとして活動。大劇場での商業演劇公演も含め、映画・テレビ・ラジオドラマなど、あらゆるシーンでその演技力と存在感を発揮してきた。70 年近い芸歴の中で、数多くの名だたる俳優と共演し、作家・演出家からも高い評価を得ている。テレビドラマでは『Dr.コトー診療所』の村長役で親しまれた。2017 年ゆすはら未来大使（土佐源氏の故郷・高知県高岡郡梼原町）就任。

独演劇「土佐源氏」

民俗学者・宮本常一氏が、1941 年に高知県檮原町にて聞き書きした盲目の元馬喰（牛馬売買人）の一代記を、坂本長利氏が独演劇化した作品。38 歳でこの老人を演じてから令和元年で 52 年、上演回数は 1200 回を超え、卒寿を迎える今も、呼ばれればどこへでも出掛けて上演する“出前芝居”を続けている。1985 年紀伊國屋演劇賞特別賞、2000 年旅の文化賞受賞。

ぞっこんです！

宮本常一著『土佐源氏』。
私がこの本に出会ったのは、２０歳くらいの時だったと記憶しています。日本全国をくまなく歩き、古老から話を聞き、辺境の地で黙々と生きる日本人の存在。私にとって「宮本常一」という方の存在は驚きでした。生涯地球を４周するほどの行程をひたすら自分の足で歩き続けた民俗学者。机上の空論ではありません。私自身若かったから、どこまで理解できていたのかは定かではありませんが、本を読みあさり、足跡を追って旅に出て、土地の古老から「宮本常一」の人となりを聞き、故郷の山口県周防大島に通い、私の旅の原点になったのでした。

そして坂本長利 独演劇『土佐源氏』。
何という舞台でしょう！坂本さんが寸分の隙もなく、時間と空間を従えていました。盲目の元馬喰は、言葉だけではもどかしい、微妙な心のざわめきや迷いを、手足の指先までも動員して演じていました。円熟味などという表現を、軽々と飛び越えていました。
素顔の坂本さんは、若々しく、ダンディーで、とてもチャーミング。小柄な方が、舞台では何故あれだけ凛として、大きくみえるのでしょう。終演後、会場を出るときには、いつも背筋がピンと伸びます。

私「追っかけ」は、これからも続けます！

浜 美枝（ライフスタイルコーディネーター・女優）

昔、坂本さんに小さな献詞をかいたことがある。

創るということは　遊ぶこと
創るということは　狂うこと
創るということは　愛すること
創るということは　生きるということ

坂本さんと仕事をしていて、その言葉が浮かんだ。

――倉本聰

坂本さんにお目にかかっていると、
突然、ある気合いに打たれることがあります。
「自分の好きなことをして生きているのだから、
世間並みの仕合せなどむろん望みはしないし、
いつどこでも野垂れ死にしてもかまわない」
という覚悟が、静かに、しかし勁く伝わってくるのです。
この気合い、この覚悟が、たとえば「土佐源氏」への凄烈な
こだわり方にあしらわれていることは申しあげるまでもありません
坂本さんのこの気合いや覚悟に、
私などもよほど見習わなくてはなりません。

――井上ひさし

「～囲碁棋士と書の遭遇～

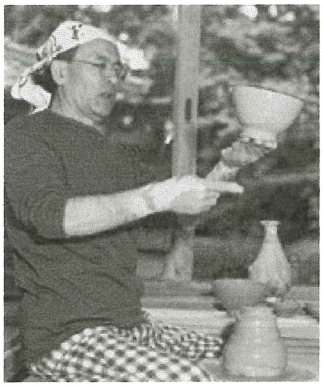
藤沢秀行（書）・近藤精宏（陶）展」

藤沢秀行（ふじさわ ひでゆき、ふじさわ しゅうこう、1925年（大正14年）- 2009年（平成21年））



棋聖戦6連覇、史上最年長タイトル保持者などに輝いた、昭和を代表する囲碁棋士の1人。
書の大家でもあり安芸の宮島・厳島神社の鎮座1400年に際し「磊磊」の文字を奉納している。各地で個展を開いたほか、1992年には大相撲の貴闘力の化粧まわしに「気」の文字を揮毫。2007年にはニコニコ動画のコンテンツ「ニコニコニュース」の題字を手掛けた。
1987年（昭和62年）紫綬褒章受章。
1997年（平成9年）勲三等旭日中綬章受章。

近藤精宏（こんどう せいこう、1945年(昭和20年)-）



世界的な陶磁学者で陶芸家の小山冨士夫の内弟子となって修業したのち、1975年に瑞浪市日吉町半原にて独立・開窯した。
2000年には同市稲津町萩原にNPO法人瑞浪芸術館を設立し、理事長として文化活動にも取り組む。
髙島屋（東京、横浜、大阪）、松坂屋（名古屋）、大丸（神戸）、渋谷黒田陶苑（東京）、ニューヨーク、マニラなどで個展を開催。
著作に「陶芸への道　―そして瑞浪芸術館へ(2017年)」がある。